

## 2021年度「サポートV」寄付金の御礼と報告

認定NPO法人 ゆめ風基金  
代表理事 戸田 二郎

近畿ろうきんの皆さま、及び会員の皆さま、東日本大震災 復興支援定期預金「サポートV」にご協力をいただきありがとうございます。おかげさまで2012年より毎年多額のご寄付をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

震災から11年を迎えた今も、被災地の人々は復興に向けて様々な取り組みをしながら彼の地で生き続けています。余震も続き、先が見えない中、近畿ろうきんの「サポートV」を通じて寄付にご協力をいただいている皆さまのおかげで、被災地の復興を後押しできていることは心強いことだと思っています。

さて、昨年の第10回寄付金では「375万円」のご寄付をいただき、ありがとうございました。貴重なこのご寄付は、下記の4ヶ所に贈呈いたしました。

## &lt;2020年度 第10回寄付金の支援内容&gt;

2021年7月	150万円	NPO法人 コーヒータイム (福島県二本松市) 就労継続B型事業所の浪江町帰還拠点設置に伴う設備等購入費用
2021年12月	100万円	NPO法人 ふよう土2100(福島県郡山市) 送迎車両購入費用
2021年12月	100万円	NPO法人 奏海の杜(宮城県登米市) 障がいの有無に関わらず、地域の皆さんが集まれる交流施設の建設費用
2021年12月	25万円	NPO法人 あおば (福島県福島市) 事務所整備費用 (エアコン購入費)

この建物は

**近畿ろうきん**

**近畿推進会議** による

東日本大震災復興支援定期預金「サポートV」  
の寄付金協力を受けて建設されました

認定NPO法人 ゆめ風基金 

☆ 2012年から2021年にいただきました支援金(総額7,790万円)は、延べ28か所の障がい者拠点の建設、活動に役立てさせていただきました。  
それぞれの建物には、【近畿ろうきん・近畿推進会議】のプレートが貼られています。

## 1. NPO法人 コーヒータイム (福島県二本松市)

ふるさと『浪江町』での活動を願っていたコーヒータイム。全町民避難解除後、避難中の利用者が一人、浪江町に帰還したこともあって「真の復興は浪江町でコーヒータイムを再開することではないか」との思いが強くなり、帰還を決意しました。福祉拠点として地域公共施設エリア内で「喫茶

店を作らないか」との打診を受け「介護関連施設ふれあいセンターなみえ」でのオープンに備え、喫茶店を新たにオープンするためのテーブルや椅子などの購入費用として 150 万円を支援しました。



【ふれあいセンターなみえ入口】



【喫茶店内の様子】

## 2. NPO法人 ふよう土 2100（福島県郡山市）

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から 10 年 7 か月。郡山市内を見ると、除染土の仮置き場となっていた公共施設から双葉郡にある中間貯蔵施設に大型ダンプで除染土を運ぶ日常がいまだに続いています。

現在、ふよう土 2100 の活動を通して、福島県郡山市内の支援学校や支援学級に通う子供たち、約 60 人が放課後等デイサービス「がっこ」、「える一む」、「あゆ一む」の児童通所施設を利用しています。その送迎車両として利用していた車が交通事故に見舞われて廃車となり、早急に新しい送迎車の購入を迫られました。今回、この送迎車両の購入費として、100 万円を支援しました。

『送迎車両の購入によって、引き続き郡山市内の支援学校や支援学級に通う子供たちが、安心して生まれ育った地域で暮らせるよう、引き続き子供たちの自立度を高めていく活動に努めていきます』。と代表の大澤さんはおっしゃっています。



### 3. NPO法人 奏海の杜（宮城県登米市）

「障がいがあってもなくても地域を奏でるひとになる」

2011年の震災以降、「被災地障がい者センターみやぎ県北」として地域の障がい者を支え続けてきました。2013年2月に「NPO法人 奏海の杜」を設立し、障がい者の日中活動支援などを行ってきました。利用者も増え、震災当時8歳だった男子が高校を卒業、社会に出る年齢となりました。今後も「就労継続支援事業」始動に向け、さらに地域の皆さんも気軽に集まれる公民館のような建物を作りたいと「交ゆう館かなみ」の建設を進めていました。しかしながら、コロナ禍の建設は資材も値上がり、設計計画の変更や対応など困難を極めました。今回、前年度の支援に引き続き、建設に必要な資金の一部として、100万円を支援しました。そして、ついに2021年12月に建物は完成しました。



【完成した「交ゆう館かなみ」の外観】



【館内に近畿ろうきん・近畿推進会議のプレートを掲示】



【日中の運動風景】

### 4. NPO法人 あおば（福島県福島市）

当団体は、1996年から、双葉町で作業所として事業を行っていましたが、原発事故により、利用者は県外などに散らばってしまいました。2012年に福島県福島市で事業を再開。双葉町からの補助金で経営を続けるも、補助金は震災前の半分となり、苦しい経営状況でした。そこで、新たに弁当の仕出しを行い、国から補助金が出る「作業所」として再スタートを切りました。

今回、建物のエアコンが老朽化していたことから取り換えが必要となり、エアコンの購入に不足する資金を事務所整備費用として25万円を支援しました。



【事業所のスタッフ】



【事務所に設置されたエアコン】

## さいごに

東日本大震災で被災した地域も 11 年を過ぎて、政府の補助金もほとんど無くなり、新たな自立の道を迫られています。しかし、人口流失による社会的資源が見込めないなどその道のりは険しいと予想されます。

様々な災害が近年多発し、東北のことが忘れられようとする中で、10 年の長きに渡り東日本大震災で被災した障害者の支援をいただけた「サポート V」は非常にありがたい寄付制度でした。未だ仮設住宅が残る東北の人たちを長期に支援でき、被災者に寄り添って一緒に考えることができる機会を設けていただいた「サポート V」への預金者の皆さま、近畿ろうきんの皆さまに、あらためて感謝申し上げます。

被災地の障害者やそのご家族、支援者においては、生きる場・暮らしの場である作業所を流され、破壊され、ご自身の自宅も津波で流され、大きな被害に見舞われながら、まさに 0（ゼロ）からではなくマイナスからのスタート。その過酷な状況にありながら懸命に復興への道を切り開いてこられたことへの敬意と共感の思いは、ゆめ風基金に全国から寄せられた寄付金にも現れています。

社会的資源が乏しい中で障害者が安心して集える・働ける場所を再建・建設し、こんなにもたくさんの資源を生み出し、地域社会にも広がりをもせる取組みがより一層発展していくことを祈念いたします。

これからも様々な困難があるかと思いますが、私たちも皆さま方といつまでもつながり、より良い共生社会の実現に向けてともに歩んでいきたいと思っております。

以上